

災害への備え

岩沼西中学校

三年

佐藤

真衣

いりめまに

ことう

まい

土砂災害はどのようなふうにして発生するだろうか。
 その思い、調べたりみると、大雨や地震、火山
 の噴火などの自然災害が積み重なって発生す
 るものだと知りました。また、日本列島の地
 形や地質、気象条件などの自然条件で日本の
 土砂災害が多く発生している。土砂災害は
 大きく三つに分けられ、土石流、地滑
 り、崖崩れがあります。それぞれ特徴があり、
 被害の大きさも変わります。最近では、台
 風の影響で土砂災害が発生している所もあり
 ます。台風七号では、近畿地方などで土砂災
 害が発生しているというニュースを見ました。
 猛暑の中、作業している方を発見し、こ
 れから私たちが何を備えたらいいのかか
 と思いましたが、しかし、土砂災害などの災害
 は今始まるたびに起こることはありません。で
 私たちは、色々な手段を知り、備えることが
 できます。

意識を度え、事前の準備からして、かきしついで、
 少しでも被害を抑えるために、自分たちの
 理解する、伝える、の三つの基礎を固め
 たい。このことが私たちに必要ではないか
 かと。一回の体験や経験など、理解して、おし
 になつて、いる人も多いと思います。それには、
 いかという時に、すぐ行動をします。イ
 タ、ネットなどで災害について調べたり、身近な
 人などから聞いたりするのと、知っている、の理
 解する、と、かきつくと、思いますが。しかし、自然
 に起こるものなので、災害を止めることは出来
 ません。その時には、気象情報などで今の状
 況、これからの情報を知らないと、いいと思いま
 す。また、市町村と配布された、いい、ハザードマ
 ップで、災害が発生した時の家の周りの様子や
 集合場所などを家族で確認する、ことを大切か
 す。思い込みの行動をして、しまつたら、何が起
 るか分かりません。ちよつとした確認が大切だ
 す。

知り、理解したとは、経験の少ない人
 には、伝えることが大切だ。私を経験し
 た東日本大震災でも、土砂災害が発生し、いま
 まで、このような大きな災害は、もたらさん、小ま
 い災害でも、その時気がいたこと、考えたこと、
 教訓を伝えたい必要がある。あります。
 また、授業で、自助、公助、自助、公助と
 いう言葉を学びました。自助とは、自分
 の身を守ること、自助とは、助け合いを
 すること、公助とは、ボランティアを
 の活動に参加することと意味します。自助
 が、自助、はし、かりと自分からするまうに
 心がけ、自分のできる範囲で、あります。と、
 こと、公助、を、するまうに、い、
 い、です。
 これらの基礎が、固まると、なると、な、
 にか、よく分かった。ために、変わ、
 する、こと、か、り、と、行動、する、
 他人、事、だ、と、思、い、か、あ、
 づ、備、え、し、く、バ、ッ、ク、
 づ、備、え、し、く、バ、ッ、ク、

